

3 学期終業式式辞

R05. 03. 20

今日で3学期が終了します。

今年度も、コロナに振り回された1年でした。学校行事やSSHの活動をはじめ、普段の授業についても様々な制約をせざるを得ないことが多く、2年生の修学旅行についても日程と行先を変更しての実施となりました。本当に申し訳なく思っています。

ただ、様々な制約の中でも、皆さんは勉強に、部活動に、学校行事に有法子の精神で「決してあきらめず、まだ何か方法はある」と知恵を巡らし、工夫を凝らして、本当に一生懸命頑張ってくれました。

今年度でI期が終了するSSHでも、多くの皆さんが、質の高い課題研究に取り組んでくれたことを嬉しく思います。SSH以前は、コンクールやコンテストへの出品数は、ほとんどなかったそうですが、今は、200件以上の出品が行われているようです。中には全国大会上位入賞や日本一に輝いたものや海外の大会に出場するものまで出ています。

皆さんそれぞれが、主体的に課題を設定し、それを解決するために、同級生や先生や外部の専門家の力を借りながら協働してその課題を解決していく学びは、将来に渡って役立つものです。

課題研究の他にも、SSHならではの外部講師による講義や普段できないような実験、体験など貴重な学びがたくさんあります。それら様々なSSHの学びの何かが、きっかけとなって皆さんの課題や、目的が定まる。そして、それが大きな目標、夢、志となることを期待しています。

今は大学入試においても、自分に、はっきりとした課題を持っている生徒を入学させる推薦型、総合型選抜入試の枠がどんどん広がっています。それは大学の先生に言わせると当然なことで、「やりたい目的がはっきりしている生徒は、大学に入ってから、入学後の生活が違う。」というのです。「大学に入ってから、伸びる。」というのです。そういったことで、かつては地方大学中心に行われていたのですが、今や、最難関の東京大学、京都大学でも推薦型、総合型選抜入試が行われるようになりました。今年卒業した先輩たちも、高い目標を設定し、SSHの成果を生かして次々と志望校合格を叶えています。東京大学、京都大学に次ぐ難関大学である大阪大学にも2名合格しました。また、今年は、商業科の輝安KOU房の研究チームのメンバーから、4名の国公立大学合格者が出ました。これは商業科の歴史を塗り替えたと言われています。

学力も伸びています。今年の卒業生の英語のGTECの伸びは西日本一だったそうです。国公立大学合格者数は、まだ、中期、後期の結果が出ていませんが、現時点で今年も100名を超えました。また、中四国においてブロック大と言われる広島大学、岡山大学の合格者数は昨年の7倍以上です。それより難しい難関大合格者数は、現時点で昨年の合格者数を越えています。最難関の京都大学に2年連続で合格者が出ました。京都大学に加えて、大阪大学に複数名合格者が出るのは、本校が1学年7学級になってから初めての快挙です。数年前と比べると、まるで別の学校と見間違ふほどのV字回復を遂げています。

今度は、皆さんがその立役者になるのです。皆さん自身が自分の夢を叶える主人公なのですから…。

いよいよ4月からは、それぞれ新しい学年のスタートとなりますが、どうぞ「よし、やるぞ」という新たな気持ちで新年度を迎えてください。皆さんは変われるんです。来年度、皆さんのますますの活躍を大いに期待しています。